

平成30年度事業報告

日本の総人口が減少する中で、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、高齢者の人口がますます増加し、これに伴い認知症高齢者や高齢者独居世帯の更なる増加が見込まれています。また、生産年齢人口の減少や健康寿命の伸び悩み等の状況を踏まえ、元気な高齢者に積極的に社会参加を求める動きが見られています。

全国有数の長寿県である熊本県は、県民の約3割が高齢者という超高齢社会に入っています。このため、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる地域包括ケアシステムを構築することを目指した施策が進められており、老人クラブにはサービスの受け手としてだけでなく、自立した社会の一員として健康づくりや友愛訪問活動等の実績を生かして、地域を支えて行く担い手としてもその活動に期待が寄せられています。

このような中、私達老人クラブは、誰もが「参加してみたい」と思えるような「楽しい老人クラブ」、「魅力ある老人クラブ」づくりに取り組み、また、平成26年度から取り組んで来ました「全国100万人会員増強運動」も平成30年度最終年度を迎え、引き続き会員拡大による組織の強化に取り組みました。

さらに、平成28年4月に発生した熊本地震災害に係る被災者支援と復興に向けた活動についても引き続き取り組んで参りました。

以下、その概要について報告します。

I 公益事業

1 健康づくり・介護予防活動の推進（公1）

（1）高齢者の体力測定普及活動の推進

高齢者にとっての体力測定の目的は、自らの体力を知り、自分に適した運動の習慣を身につけ、体力を保持していくことが大切です。

ついては、健康づくりの「点検」活動の一つとして、平成19年度から「高齢者の体力測定、啓発・普及事業」に取り組んでいます。

（高齢者の体力測定選定老連）

平成30年度	南阿蘇村老連、球磨村老連
--------	--------------

今後も体力測定の事業継続と新たな取り組み等を支援し、事業の拡大・普及を図っていきます。

（2）健康ウォーキング支援事業の推進

平成22年度からみずほ教育福祉財団の助成事業として、6地区がモデル老連して取り組みました。その後、県老連予算で自主的に継続し、平成30年度は、ウォーキング支援事業として2老連が取り組みました。

(健康ウォーキング選定老連)

平成30年度	熊本市老連(長嶺校区)、宇城市老連(三角町)
--------	------------------------

今後も「健康ウォーキング」の各老連での事業継続と実施老連の拡大について支援していきます。

(3) 健康づくり指導者育成事業

① 健康・生きがいづくり支援事業推進委員会

医師、歯科医師、栄養士、健康運動指導士、行政等の外部委員を中心に6名で推進委員会を構成し年2回開催しています。

第1回：平成30年6月7日 年間の事業計画及び取り組みについて協議

第2回：平成31年2月12日 事業実施の結果をもとに意見交換及び次年度計画への反映について協議

② ブロック別「健康づくり講演会」

こころとからだの健康づくりに関して、専門的な立場からの講演(中央ブロック：医師、理学療法士、県北ブロック：薬剤師、健康運動指導士)と各老連や単位老人クラブで、健康づくりに取り組んでいる立場からの実践報告をお願いし、活動の普及・拡大を目指しました。

(ブロック別「健康づくり講演会」)

平成30年度	7月31日 中央ブロック：熊本市地区
//	2月28日 県北ブロック：玉名市・郡、荒尾市地区

③ 健康づくりリーダー等養成の取り組み

健康づくりに関わる指導者を中心に事業の目的に沿った講演(口腔機能向上や運動等による健康づくり)とウォーキングや体力測定の実技指導を中心にした研修会を開催しました。

(健康づくりリーダー養成研修会)

平成30年度	11月15日 熊本県立総合体育館(中体育室) ○「ノルディック・ウォーキング」及び「高齢者の体力測定」についての実技講習会 1月25日 ○「高齢者の口腔機能向上による健康づくり」及び「できることから始めよう！健康づくり」講演会
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 地域支え合い活動の推進（公2）

（1）在宅福祉を支える友愛活動の推進

本県の友愛活動を実施するシルバーヘルパーを養成するため、平成元年に「ふれあいアンドヘルプ事業」としてスタート。現在は「シルバーヘルパー活動推進事業」として継続実施し、30年間多くの会員の理解と協力により、県老連活動の最重点事業として取り組んでいます。

（シルバーヘルパー講習会）

平成30年度	養成講習会	指導者養成講習会
受講者数	920人	188人
延べ受講者	46,137人	4,993人

超高齢社会が進行する中で、友愛活動は地域を支える重要な取り組みとして、さらに拡大充実していくとともに男性会員の受講にも力を入れる必要があります。

（2）地域支え合い活動に関する県老連から市町村老連への取り組みの呼びかけ

A 地域の安全・安心の取り組み

① 地域の子ども見守り活動

地域における子ども見守り活動、防犯、振り込め詐欺等に対するパトロール活動や講習活動については、一定程度の広がりを見せていますが、地域による温度差も生じています。

県老連では、これまでパトロールに取り組んでいる老人クラブには、活動の継続をお願いしており、パトロールの空白地帯が解消できるように取り組んでいるところです。

② 防犯・消費者被害・振り込め詐欺等

振り込め詐欺に代表されるように高齢者を狙った悪質業者の被害に遭わないように、警察との情報共有や講習会開催などの安全対策に取り組んでいるところです。

③ 災害等緊急時の対応

自治会や町内会といった団体との連携の中で、高齢者や社会的弱者の災害、緊急時の連絡や避難体制について、可能なところから検討を進めているところです。

B 社会奉仕の日の取り組み

「老人の日・老人週間」は、9月15日～9月21日の期間、国民に老人の福祉についての関心と理解を深めると共に、老人に対し自らの生活の向上に努める意欲を促すために制定されたものです。

期間中の9月20日を老人クラブ全国一斉「社会奉仕の日」として制定し、環

境美化活動等に取り組むこととされています。

平成30年度、各市町村老連からの報告を取りまとめた結果は、下記のとおりでした。参加されました会員の皆様大変ご苦労さまでした。

年度別	参加老連数	参加クラブ数	参加会員数
平成30年度	44	1,459	37,418人

※取り組んでいても報告のなかった老連分は、計上していません。

3 活動活性化に向けた取り組み（公3）

（1）広報活動

- ① 広報委員会の開催と年2回の「県老連だより」の刊行
- ② 元気老人クラブ活動広報推進事業

県からの補助を受け、研修会の開催や事例を通じて、活発・先進的な活動等を行っている老人クラブを他の老人クラブに紹介。

また、打合せ（会員加入増強運動推進委員会：1回開催）を行い、高齢者が入りたくなるような老人クラブづくりへの取り組みを進めるとともに県老連の活動状況をPRするため、PRグッズや会員増強運動の手引き（Ver. V）などの作成を行いました。

（2）単位老人クラブ調査事業

単位老人クラブの組織実態について調査し、地域活動の基礎資料を作成しました。 老人クラブ名簿 200部作成

（3）老人クラブ大会及び各種表彰事業

県老連大会を開催して老人クラブの育成発展に功績のあった個人及び団体を表彰しました。また、老人週間において、95歳になった老人クラブ会員に寿詞の贈呈を行いました。

（4）老人クラブリーダーの育成等

- ① 老人クラブ新任会長及び女性リーダー研修会等の開催

県内の単位老人クラブの会長や女性部長の交代に伴う新人の役員を対象として研修会を企画していただき、老人クラブの基礎的な活動や組織のあり方について講話を行いました。平成30年度は17箇所、1,178名の参加者がありました。

このほか、郡及び町の老連にて開催された幹部研修会においても講話を行いました。

（5）活動活性化に関する県老連から市町村老連への取り組みの呼びかけ

A 行政や関係団体との連携強化

- ① 市町村行政と定期的な協議の機会設定

市町村老連と市町村行政との間で予算や事業に関して円滑な協議ができるように県老連で「要望書」を作成し、各老連が自治体との話合いの機会を設定される際に使用していただきました。

② 地域ネットワークへの積極的な参加

地域の中で安心・安全に暮らしていくために、自治会をはじめ地域にあるネットワークと連携を取りながら活動に参加するよう呼びかけました。

4 被災者支援及び震災復興関連事業（公4）

（1）復興支援活動の実施

平成28年4月に発生した熊本地震災害からの復興支援活動として、次のとおり被災者支援及び震災復興を目的とする事業を行いました。

- ① 市町村老連が行う支援活動への支援
- ② 市町村老連間の交流事業への支援
- ③ 「熊本地震災害記録報告書」の作成
- ④ 熊本地震復興祈念事業（復興祈念寄席）の実施

（2）募金活動の実施

西日本を中心に広範囲で甚大な被害をもたらした平成30年7月の台風7号及び梅雨前線等の影響による集中豪雨において、被災者支援に係る募金の取り組みを行い、集まった募金は特に被害の大きかった岡山県、広島県、愛媛県の3県に対し、被害状況に応じて配分額を決定し、各県老連へ送金しました。

II 収益事業

1 指定旅館・図書斡旋（収1）

（1）指定旅館

会員の研修や旅行に資するため、安心して活用できる場（旅館等）の情報を提供しようという趣旨で実施しています。旅館からの申し出を受け、理事会等に諮り指定旅館として決定します。

平成30年度は県内・県外あわせて50件の旅館等を指定しました。

（2）図書斡旋

老人クラブの活動日誌や会計簿などを会員に斡旋しました。

2 保険広告（収2）

（1）保険広告料収入

全老連が実施する傷害保険等について、機関紙である「県老連だより」をはじめ、研修会・講習会等の資料に広告を掲載して宣伝を行い、広告料収入を得ました。

3 共益（他1）

（1）郡・市町村老連事務担当者研修会

市町村老連の事務局長や担当者を集め、活動方針や事務連絡、意見交換を行って認識の統一と活動の活性化を図りました。

Ⅲ 会議及び研修会

1 役員会等の開催

- （1）正副会長会議
- （2）理事会
- （3）総会
- （4）監査
- （5）活動積立金管理運営委員会
- （6）女性委員会
- （7）友愛訪問活動活性化委員会
- （8）会員加入増強運動推進委員会

2 全国及び九州ブロック会議及び研修会等

- （1）第31回全国健康福祉祭（富山県）
- （2）第47回全国老人クラブ大会（沖縄県）
- （3）全国老人クラブ連合会理事会・評議員会（東京都）
- （4）都道府県・指定都市老連会長会議（東京都）
- （5）都道府県・指定都市老連事務局長会議（東京都）
- （6）都道府県・指定都市老連女性リーダーセミナー（東京都）
- （7）都道府県・指定都市老連女性代表者会議（東京都）
- （8）在宅福祉を支える友愛活動セミナー（東京都）
- （9）九州ブロック老人クラブリーダー研修会（鹿児島県）
- （10）九州各県・指定都市老人クラブ連合会連絡協議会（北九州市）
- （11）九州各県・指定都市老連事務局長会議（北九州市）

